

【案】 (仮称) おぢや未来ビジョン

第六次小千谷市総合計画 2026-2035

【ご意見募集にあたってのお願い】

本計画案に挿入されているイラストはすべてイメージであり、パブリックコメント実施後、差し替えを予定しております。

つきましては、パブリックコメントの対象は計画の文章部分（内容）のみとし、イラストに関するご意見はご遠慮くださいますようお願いいたします。



市長

ごあいさつ

〈基本構想〉

おぢやの輪

のぞいてみよう、
小千谷の新しい 10 年間



「市民憲章」

小千谷市民のねがい

美しい山河にめぐまれ、深い雪におおわれるこの風土に生きた先人は、やさしく忍耐強い気風と、おおらかな雪国の文化と、独創的な産業を育ててきました。これをうけつぐわたくしたち市民は、次の目標をかかげ、さらに光ある明日を目指して進みます。

みんなで「わがまち小千谷」を育てましょう。

雪にくじけぬ、たくましいまちに。

いたわりと真心のあふれるまちに。

健康で、文化の香り豊かなまちに。

はたらく喜びにみちた産業のまちに。

(昭和五十五年三月一日 制定)



本市は、昭和 55 年 3 月に市民憲章として「小千谷市民のねがい」を制定しました。
おぢや未来ビジョンは、この市民憲章の想いを受け継ぎながら策定しています。

働きがいにあふれ、
若者が戻ってきたい！と思えるまちへ！

ステージ2「はたらく」のステージ

- 地域産業の魅力を高め、担い手を育てることで、持続的な経済の発展を図ります。
- 農業・商工業など地元産業の活性化に取り組み、企業誘致や新しいビジネスへの挑戦の後押しをすることで、多様な働く場を生み出します。
- やりがいを持って働ける環境を整え、若者から選ばれるまちを目指します。



進学



U・Iターン

就職



笑顔と希望
「おぢやの
みんなでつ

安心して子どもを
産み育てられるまちへ！

ステージ1「こそだて」のステージ

- 妊娠・出産から子育て・教育まで、切れ目のないサポートでご家族に寄り添います。
- 若い世代の出会いの機会を増やし、仕事と子育ての両立しやすい環境を整えます。
- こどもたちの成長を地域で見守り、一人ひとりが夢や目標に向かってのびのび育つまちを目指します。

子育て

出産

出会い

結婚



心豊かに、
いきいき暮らせるまちへ！

ステージ3 「くらす」のステージ

- 誰もが安心して快適に暮らせるよう、道路や公共施設などの都市基盤を整え、災害に強く利便性の高いまちをつくります。
- 医療や福祉の体制を充実させ、健康に暮らせる環境を整備します。
- 地域の中で互いを尊重しながら、自分らしく安心して暮らせるまちを目指します。

起業

望を育む
「輪」を、
なくまち

誇れる自然と文化、
にぎわいあふれる交流のまちへ！

ステージ4 「みがく・つなぐ」のステージ

- 小千谷の豊かな自然や特産品、歴史ある文化を守り育て、その魅力をさらに磨き上げます。
- 体験や交流の機会を広げ、地域内外に向けて魅力を効果的に発信することで、関係人口や観光客の増加を図ります。
- 文化の継承や環境保全を市民とともに進め、支え合いのある持続可能なまちを目指します。

■ 笑顔と希望を育む「おぢやの輪」とは

小千谷で生まれ育った、あるいは小千谷と関わりを持つ人たちが、出会い、愛を育み、新たな命を授かり、子育てを通じて地域とつながり、次の世代へと人生の喜びと絆を紡いでいく。

そして、そのつながりの中で誰もが「このまちで暮らしてよかった」と心から感じられる。世代を超えて受け継がれ、未来までずっとつないでいく好循環こそが「おぢやの輪」です。

小千谷が目指すまちの姿を実現するために、「こそだて」「はたらく」「くらす」「みがく・つなぐ」の4つのライフステージごとに、目標や取組をまとめています。

■ これからの10年間、小千谷が目指すまちの姿

笑顔と希望を育む「**おぢやの輪**」を、**みんなでつなぐ**まち

私たちが目指すまちの姿は、単なるスローガンではありません。これは、小千谷が誰もが笑顔で安心して暮らせるまちとして持続していくための、今後10年間に成し遂げる強い決意表明です。

「おぢやの輪」を力強く、未来までずっとつないでいくためには、小千谷に住み、働き、学び、訪れるすべての人が自分ごととして積極的に関わり、力を合わせる事が不可欠です。互いを尊重し、助け合い、一人ひとりにできることから一歩を踏み出す「みんなでつなぐまち」の実現に向け、私たちは歩みを進めます。

■ 目指すまちの姿を実現するために

1 今、取り組んでいること

みんなの一歩で、未来づくり大作戦

市制施行70周年を迎えた令和6（2024）年を「再スタートの年」と位置づけ、人口減少による消滅可能性自治体からの脱却を目指す「みんなの一歩で、未来づくり大作戦」を展開しています。このプロジェクトは、市民、企業、団体、行政が連携し、それぞれが一歩を踏み出すこと（ワンアクション）で、まちの活性化に向けた好循環を生み出すことを目指しています。「誰もが笑顔で安心して暮らせるまち」の実現に向けて、未来づくりアンバサダーをはじめとする、共に未来を築く仲間を求めています。

2 これから意識してほしいこと

小千谷市民の3箇条

「小千谷市民の3箇条」は、私たち一人ひとりがまちの未来をつくるための“行動のヒント”です。これからの小千谷をよりよくするために、みんなで大切にしていきましょう。

その1

挑

市民・企業・団体・行政が協力して、みんなで挑戦しよう！

「これをしてみたい」「こんなことができるかもしれない」、そうした前向きな気持ちを大切にしましょう。自分の力だけでは困難なことも、みんなと連携し、互いの知恵と力を合わせることで実現でき、新たな価値と活力が生まれます。共に挑戦することが、小千谷の未来を切り拓く原動力となります。

→具体的なアクション例

- ・自分の得意なこと（料理、絵、話し合いなど）を地域の中で活かしてみる
- ・市の広報誌や回覧板に目を通して、気になるイベントに参加してみる
- ・地域のワークショップや意見交換会に参加して、自分の意見を伝えてみる

その2

援

チャレンジしている人たちを、みんなで全力応援しよう！

新しい事業を立ち上げる人たちや地域を盛り上げることに尽力する人たちへ、「頑張って！」という応援の気持ちを届けましょう。みんなの温かい声は、挑戦する人たちにとって大きな支えとなります。互いを認め、支え合う意識が、まち全体の活性化へとつながります。

→具体的なアクション例

- ・学校や地域活動で頑張っている友人や知り合いに励ましの言葉を送る
- ・地域のマルシェや発表会などに足を運び、出展している人と交流する
- ・応援したい活動や取組を、家族や友人に紹介してみる

その3

発

小千谷の宝を磨き、誇りを持って、みんなで発信しよう！

小千谷は、錦鯉や花火、豊かな自然など、数々の素晴らしい「宝」に満ちています。かつて先人たちが未来を切り拓いてきたように、今度は私たちがこの「宝」を再発見し、磨き、次の世代へとつなぐ番です。小千谷の魅力を伝える声が増えるほど、まちに活気と明るさが広がっていきます。

→具体的なアクション例

- ・家族で地域の観光地を巡って、小千谷の「宝」を再発見する機会を持つ
- ・市外の友人を小千谷に招いて、一緒に観光や地域イベントを楽しむ
- ・お気に入りの小千谷の風景や特産品を SNS などでも発信してみる

今日からできる、小さな一歩。

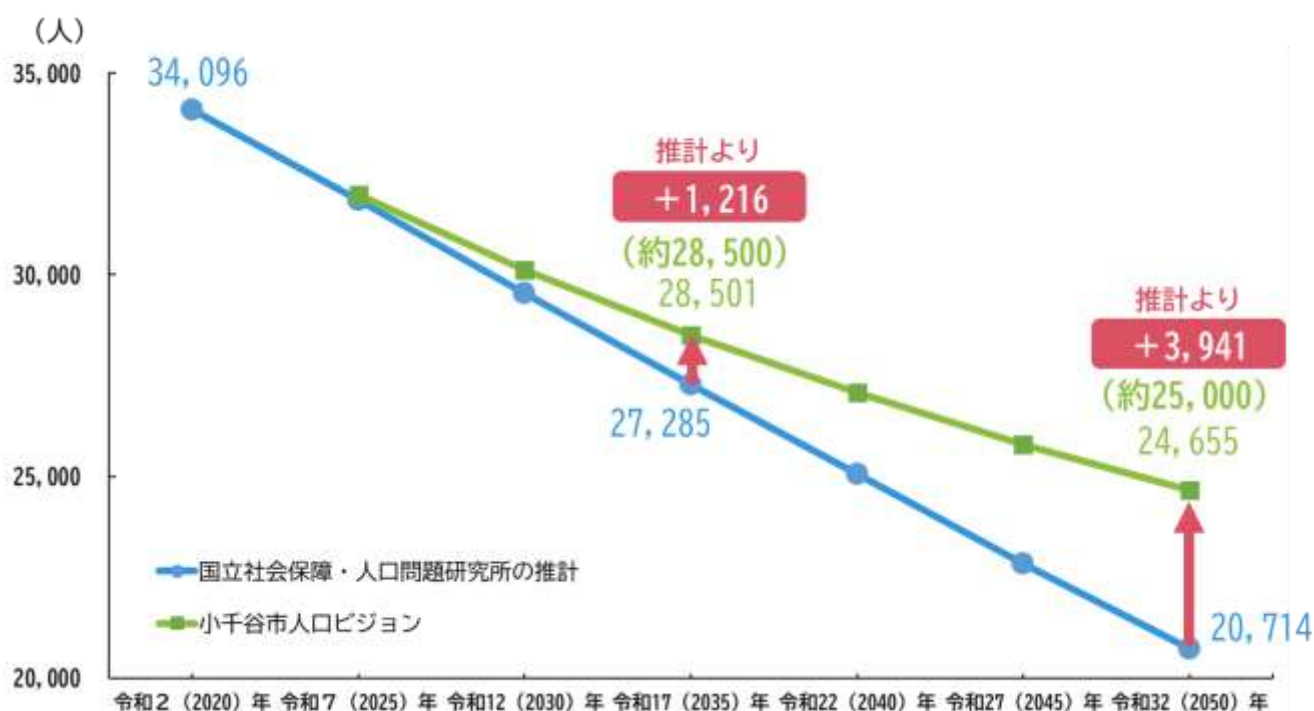
あなたがやるなら、みんなでやるなら、
何ができそうですか？



■ 目指すまちの姿の実現により、今後も持続するまちへ

平成2（1990）年に43,437人だった小千谷の人口は、30年後の令和2（2020）年には34,096人まで減少しました。30年間で約5人に1人がいなくなった計算になります。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、本計画の最終年度にあたる令和17年（2035）年には27,285人に、さらにその15年後である令和32（2050）年には20,714人にまで減少し、30年間で人口が13,382人減少すると見込まれています。このままでは、まちの活力が次第に失われ、私たちの暮らしにも大きな影響が生じるおそれがあります。



しかし、私たちはこの予測をただ見ているわけではありません。笑顔と希望を育む「おぢやの輪」をみんなでつなぐことで人口の減少幅を最小限に抑え、令和17（2035）年の人口を28,500人に、令和32（2050）年の人口を25,000人にすることを目指します。

この「25,000人」という目標は、みんなの生活の質を守り、小千谷を今後も持続させていくために必要な市民の人数です。不安定な人口構造を改善し、この人数を維持することで、働き手の確保や安定した経済活動、子育てしやすい環境や高齢者を支える仕組みの維持につながります。

➡小千谷市人口ビジョンの詳細については、資料編 p. 〇～をご確認ください。

■ 未来への道を示す「おぢや未来ビジョン～第六次小千谷市総合計画～」

1 「おぢや未来ビジョン」とは？

「おぢや未来ビジョン」と聞くと、ちょっと堅苦しく感じるかもしれません。でも、これはまちの未来を考える上で、とっても大切な「まちづくりのロードマップ」です。

このビジョンには、これから小千谷を「どんなまちにしていきたいか」「どんな暮らしができるか」といった私たちの夢や目標が詰まっています。

行政がこれから色々な計画（子育て、防災、観光など様々な分野の計画があります）を立てるときは、すべてこの「おぢや未来ビジョン」という大きな目標の達成を目指します。このビジョンは小千谷の行財政運営のすべての土台となるものです。

2 計画の役割

この計画には、大きく分けて2つの役割があります。

■ みんなで取り組むまちづくりのロードマップ

市民や企業などの皆さんが、まちづくりに参加する際に「何から始めたらいいだろう？」「どんなことができるかな？」といった疑問を解決するための「道しるべ」となります。

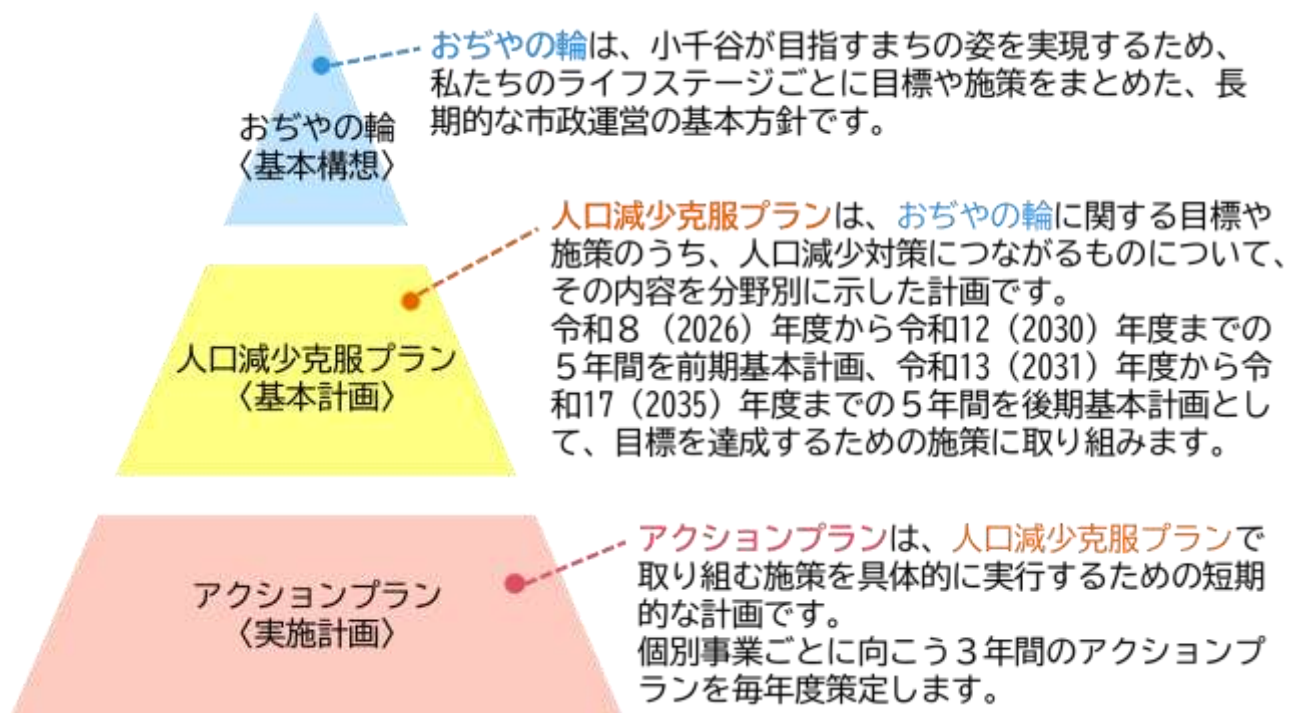
■ 行財政運営のロードマップ

人口減少という大きな課題に、行政がどのように向き合い、日々の仕事を進めていくべきかを示す「指針」となります。

3 計画の期間

この計画は、令和8（2026）年度から始まり、令和17（2035）年度を目標年度とする10か年計画とします。

4 計画の構成



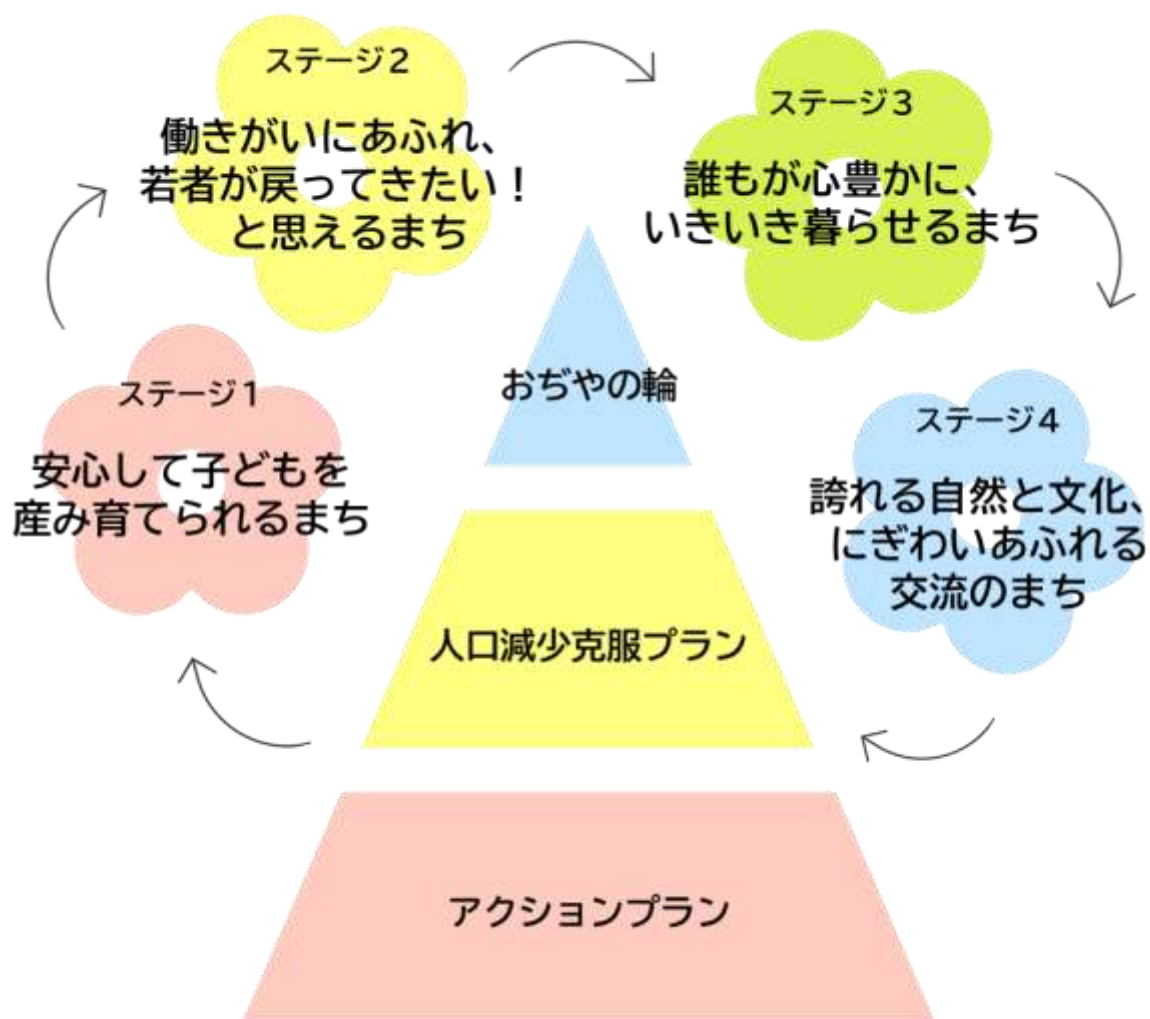
(計画全体の構成イメージ)

令和32（2050）年に目指すまちの姿

- 令和32（2050）年の小千谷市の人口 25,000人
- こどもがのびのび育ち、夢を育んでいる
- 誰もが自分らしく働き、地域を支えあっている
- 世代を超えて支えあい、快適に暮らしている
- 人と自然、文化と世界がつながっている

今後10年間でめざすもの

- 「笑顔と希望を育む『おぢやの輪』を、みんなでつなぐまち」の実現
- 令和17（2035）年の小千谷市の人口 28,500人



4つのライフステージ別にみる まちづくりの方針

4つのライフステージに沿って、具体的な11項目の「将来の姿」を設定し、19項目の重点テーマを掲げて、まちづくりを進めます。

- 妊娠・出産から子育て・教育まで、切れ目のないサポートでご家族に寄り添います。
- 若い世代の出会いの機会を増やし、仕事と子育ての両立しやすい環境を整えます。
- 子どもたちの成長を地域で見守り、一人ひとりが夢や目標に向かってのびのび育つまちを目指します。

将来の姿

未来に希望を持ちながら、
新しい家族が誕生している



地域で子育てを見守り、
親子が安心して
健やかに暮らしている



子どもが夢や目標に向かって
個性や能力を伸ばしている



＞重点テーマ

- 1-1 結婚・妊娠・出産のライフステージごとに切れ目のない支援体制の充実
- 1-2 こどもの成長を見守り、親子の健やかな成長に寄り添うサポート体制の充実
- 1-3 親子の成長に寄り添い支える伴走型支援の強化
- 1-4 生きる力を育む学校教育の推進
- 1-5 家庭や地域での教育力の向上

- 地域産業の魅力を高め、担い手を育てることで、持続的な経済の発展を図ります。
- 農業・商工業など地元産業の活性化に取り組み、企業誘致や新しいビジネスへの挑戦の後押しをすることで、多様な働く場を生み出します。
- やりがいを持って働ける環境を整え、若者から選ばれるまちを目指します。

将来の姿

地域産業の魅力が高まり、
活気にあふれている



ライフスタイルや価値観に合った
働き方ができている



＞重点テーマ

- 2-1 産業の魅力を高め、担い手確保と地域経済の発展促進
- 2-2 新しいビジネスの場、チャレンジできる環境の創出
- 2-3 職業の選択肢を増やし、若者が働きがいを感じる職場環境の整備
- 2-4 働きやすい環境を整え、誰もが活躍できる職場環境の整備

- 誰もが安心して快適に暮らせるよう、道路や公共施設などの都市基盤を整え、災害に強く利便性の高いまちをつくります。
- 医療や福祉の体制を充実させ、健康に暮らせる環境を整備します。
- 地域の中で互いを尊重しながら、自分らしく安心して暮らせるまちを目指します。

将来の姿

安全で快適な環境が整い、
ずっと住み続けている



安心していきいきと
暮らしている



心豊かに自分らしく
暮らしている



➤重点テーマ

- 3-1 快適で利便性の高い都市基盤の整備
- 3-2 市民の安全安心を守る体制の強化
- 3-3 適切な医療が受けられるなど、健康的に過ごせる環境整備
- 3-4 個性が尊重され、誰もが安心して暮らせる社会の構築

- 小千谷の豊かな自然や特産品、歴史ある文化を守り育て、その魅力をさらに磨き上げます。
- 体験や交流の機会を広げ、地域内外に向けて魅力を効果的に発信することで、関係人口や観光客の増加を図ります。
- 文化の継承や環境保全を市民とともに進め、支え合いのある持続可能なまちを目指します。

将来の姿

誰もが小千谷を好きになり、
かわりを持ちたいと思っている



人と人とのつながりや
交流により活気があふれ、
住みやすいまちになっている



豊かな自然と歴史ある
文化に誇りを持ち、
次世代の若者が受け継いでいる



➤重点テーマ

- 4-1 地域資源の魅力向上とブランディングの確立
- 4-2 小千谷の魅力が最大限に伝わる体験・交流と効果的な情報発信
- 4-3 多様な交流による新しいつながりの創出
- 4-4 市民参画によるまちづくりの推進
- 4-5 環境負荷の低減、恵まれた自然環境の保全、循環型社会の形成
- 4-6 芸術文化活動や歴史文化の保存・活用の推進